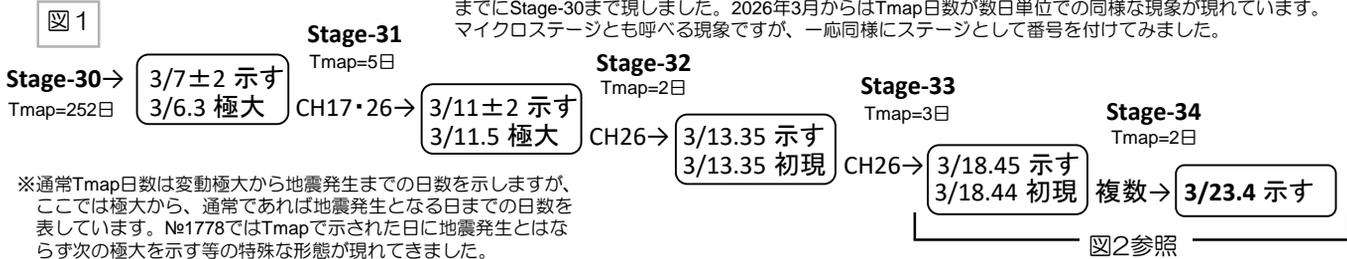


※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は30年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。2024.1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましては、2023.12/31の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±0.3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日に発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。皆様の本観測研究に対するご支援（情報配信参加）を賜りたくお願い申し上げます。

No1778 長期継続前兆 複数変動 副極大出現の可能性 正しい場合 修正 → 3/23を示す

◆No1778は17年8ヶ月の間、※Tmap日数は数ヶ月単位で次のステージ極大を示す変動を繰り返し、2026年までにStage-30まで現れました。2026年3月からはTmap日数が数日単位での同様な現象が現れています。マイクロステージとも呼べる現象ですが、一応同様にステージとして番号を付けてみました。



※通常Tmap日数は変動極大から地震発生までの日数を示しますが、ここでは極大から、通常であれば地震発生となる日までの日数を表しています。No1778ではTmapで示された日に地震発生とはならず次の極大を示す等の特殊な形態が現れてきました。

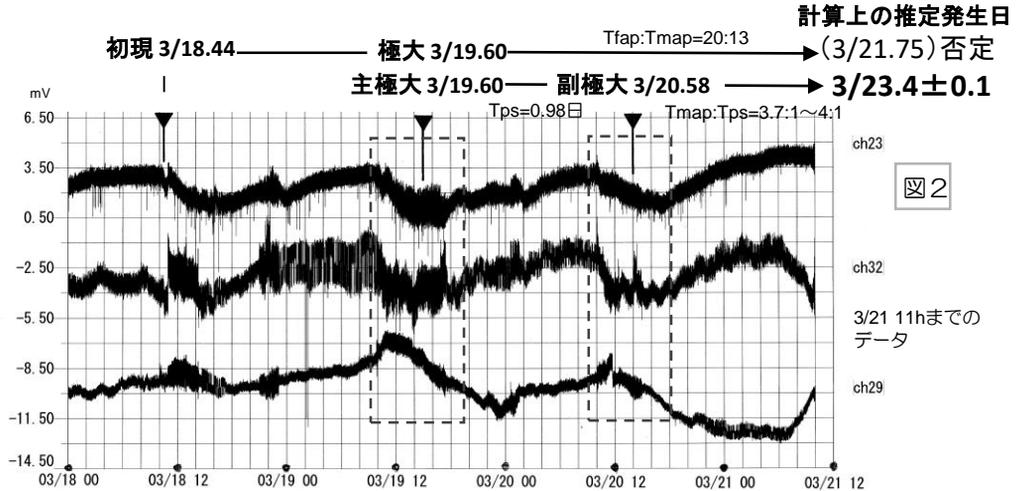
Stage-34 副極大認識  
正しい場合 3/23午前  
対応地震発生の可能性

または  
3/23変動出現で次ステージ  
に移行の場合は続報予定

◆昨日の情報ではStage-34の初現～極大の関係からは本日3/21夕刻の可能性を示すことを報告致しました。その場合には、本日3/21午前には静穏期に入って変動が消えることが計算されます。しかし、現在変動有。

◆本日3/21昼前までのデータを見ますと、3/20の14時前を中心に変動の小ピークが認識できます（特にCH29がわかりやすい）。3/20.58の小ピークは副極大の可能性が考えられます。これが正しい場合は、主極大より副極大の方が変動が短いため、Tmap:Tps比は、平均の3.7:1は考えにくく、4:1に近い可能性が示唆されます。Tps=主極大～副極大間日数  
Tmap:Tps 3.7:1=3/23.2  
Tmap:Tps 4:1=3/23.5

◆以上のことから、本日夕刻発生の可能性は考えにくく、副極大認識が正しい場合は3/23の午前中が示されることとなります。この時期に変動出現がなければ、対応地震発生の可能性が否定できません。



※主・副極大型変動では、複数の小ピークが出現する場合があります。主極大のあとの小ピークの中で変動値の大きな小ピークが副極大の可能性となります。



●推定領域：図3の点線領域内＝大枠推定領域  
図3の太線領域内＝可能性が考えやすい  
図3の斜線領域＝火山近傍で考えやすい

●推定規模：M8.0±0.3  
M7.7～8.0の可能性考えやすい  
または複合地震  
複合の場合はM7以上地震の断層長Lkmが  
Log L=0.5M-1.8 (Utsu.)式で110～150km  
程度となる様な複合地震活動の可能性  
(例：M7.1±0.3+M7.3±0.3等)

●推定時期：2026年 3月23日 可能性考えやすい  
誤差範囲：3/23～25  
3/23に変動出現の場合は、数日後となる  
可能性有。その場合は続報で修正予定

○推定地震種：震源浅い日本列島陸域地殻地震  
○推定発生時刻：9時±2 or 18時±3  
(複合地震の場合は当てはまらない)  
※草津白根山付近震源の場合は地震発生に伴う  
小規模噴火の可能性否定困難